

令和7年度 第1回浦添市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

日時：令和7年1月30日（金）

10:00～12:00

場所：浦添市役所9階講堂

■ 会長の選出について

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
事務局	本協議会規約第5条第2項に基づき、会長は委員の互選により定めることとされている。委員から意見がなければ、事務局案として、浦添市副市長「比嘉 克也 委員」を推薦する。	(全委員) 異議なし。
浦添市 副市長 比嘉 会長	本協議会の規約第5条第4項に基づき、副会長に浦添市都市建設部長「仲西 信雄 委員」を指名する。	(全委員) 異議なし。

■ 2. 報告事項 (1) 令和6年度 of 取組結果について・・・(資料1)

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
	特になし。	

■ 2. 報告事項 (2) 今年度の取組施策について・・・(資料2)

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
沖縄都市モノレール株式会社 常務取締役 前川 委員	① アンケート調査結果について、調査①は3頁右下の表にあるとおり回収率が35.2%となっている。一方、10頁に掲載されている調査②は回収率が2.7%と低くなっている点気になるが、その要因について何か分析は行っているのか。 ② 意見として、てだこ浦西駅の調査結果における今後の方向性として、動線整備や県道からのアクセス向上が挙げられているが、幸地インターチェンジの県の道路事業が現在進行中であることを踏まえ、当該事業の完成後を見据えたうえで、改めて	(事務局) ① アンケート調査②の回収率が低かった点については、配布方法がポスティングであったことが要因と考えられる。調査①・②ともWEB回答という点は共通していたが、調査①は駅利用者に直接チラシを配布したのに対し、調査②ではポストを確認してもらえず、チラシが目につれにくい世帯も見受けられた。改善策としては、調査期間を通して回答期限を延長することなどが考えられる。なお、両アンケートとも抽選によるデジタルギ

	検討が必要と考える。	フトのインセンティブを設定しており、特に利用者アンケートでは一定の効果があったと考えている。
株式会社琉球バス 交通 代表取締役 社長 小川 委員	<p>① てだこ浦西駅関連調査において、調査対象の路線バスには、空港～名護方面の高速バス（111番、117番）は含まれるのか。近年、てだこ浦西駅へのアクセス目的とみられる幸地インターチェンジでの降車利用が増加しており、バス4社で案内および車内アナウンスを実施している。高速バス（111番、117番）は実質的にてだこ浦西駅アクセスを担っているため、調査対象に含めてほしい。</p> <p>② 「乗り継ぎが悪い」とされているのは、県道を走る56番、25番・125番、97番を指しているのか。特に97番は西原入口からてだこ浦西駅までの動線が分かりにくく、案内不足が課題である。乗り継ぎ改善のため、道路管理者による案内標識等の整備を検討できないか。</p>	<p>（事務局）</p> <p>① 今回の調査では幸地インターチェンジ側からの利用は対象としておらず、交通量の多い県道241号線（56番・25番系統等）に着目し、県道側からの駅へのアクセス実態を把握することを目的として実施した。</p> <p>② ルートの分かりにくさについては、これまでも意見が寄せられており、県を含む関係機関と対応方針を検討している。今後も状況に留意しつつ、道路管理者等と連携し、可能な取組を進めていく。なお、具体的な改善案があれば、個別に意見をいただきたい。</p>
琉球大学 教授 神谷 委員	<p>① バス停からの案内について話題が出たが、バス停本体に案内表示が十分あるのか。道路上の案内表示も含め、総合的に検討すべきと考える。また、利用者増加の状況については、この協議会の場に限らず、事務局等と共有し、可能であればデータで示していただかないと議論が難しいと考える。その点も含めて、検討していただきたい。</p> <p>② 22頁の駅交通広場について、路線バスの乗り入れがない理由として示されている「進入・退出経路の制約」とは、具体的にどのような内容か。交通広場は本来、バス利用を前提に計画されるものと考えられること</p>	<p>（小川委員）</p> <p>① 内容を了承し、検討する。</p> <p>（事務局）</p> <p>② 市道国際センター線を北向きに走行する場合、中央分離帯の影響で右折が出来ず、路線バスが交通広場へ進入することができない。以前バス事業者の相談のもと、道路管理者に話を伺ったが、県道からの進入・市道への退出という限定的なルートでしか活用できないということだった。</p> <p>③ 当該課題は今年度の調査で把握した段階であり、具体的な対応は関係部局と連携の上、検討していきたい。</p>

	<p>から、その点について説明を求めたい。</p> <p>③ 浦添前田駅・経塚駅では、今後の方針として案内サインや照明等の設備整備が挙げられているが、実際の設置にあたっては担当部局が異なると考えられる。今後、どのような対応を想定しているのか。</p>	
<p>内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所 副所長（技術） 高良 委員</p>	<p>① 道路管理者の立場から見ると、現時点の整理された課題は、やや抽象的である。案内サインであれば設置すべき位置、道路であれば歩行しにくい箇所など、具体的に何が問題なのかを明確に整理できれば、道路管理者としても具体的な調整を進めやすくなる。</p>	<p>（事務局） 今年度の取り組みは利用促進に向けた基礎的調査であるため、今後は関係機関および当協議会と連携し、意見交換を行いながら具体的な検討を進めていきたい。</p>

■ 3. 議題 （1）協議会規約の改定について・・・（資料3）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
<p>内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室 室長 亀谷 委員</p>	<p>① 規約第4条(6)に誤字が見られる。「公安委員会」ではなく、「公安委員会」ではないか。</p>	<p>（事務局） ① 指摘された規約第4条(6)の誤字を修正する。</p>
<p>一般社団法人浦添市観光協会 事務局長 千住 委員</p>	<p>① 現行の名簿において、当協会の法人名「一般社団法人」が記載されていない。</p>	<p>（事務局） ① 名称が正式でなく失礼した。規約中の別表として示されていた名簿は今回の改定で廃止され、詳細な委員名簿は協議会資料で示す。規約改定に伴い作成する名簿には法人名を含め正式名称となっている。</p>
<p>浦添市 副市長 比嘉 会長</p>	<p>議題である「協議会規約の改定について」について承認して宜しいか。</p>	<p>（全委員） 異議なし。</p>

■ 3. 議題 （2）計画内施策の推進状況と今後の取組について・・・（資料4）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
<p>株式会社琉球バス交通 代表取締役社長</p>	<p>① 施策⑳の運転手不足への対応に関連して、今年度は当社の女性運転手募集活動において市の協力をいた</p>	<p>（事務局） ② 有効なアイデアだと考えるが、実施にあたっては施設管理者との協</p>

<p>小川 委員</p>	<p>だいた。感謝する。</p> <p>② 8 頁のバス停について、浦添美術館は「琉球八景」などを収蔵し、非常に素晴らしい施設だと感じている。その美術館付近のバス停には上屋も整備され、周辺には美術館のほか、音楽ホールや福祉施設など多様な施設がある。バス停に周辺施設の案内を掲示し、バスと施設の連携を強化してはどうか。</p>	<p>議が必要となるため、この場での即答は難しい。今後、前向きに検討していきたい。</p>
<p>一般社団法人沖縄 県ハイヤー・タク シー協会 事務局 長 津波古 委員</p>	<p>① 4 頁に記載の施策①の進捗評価「B」について、事業者の立場から補足説明する。</p> <p>まず、「相乗りタクシー」については、事業者として今後も継続して検討していきたい。次に、「日本版ライドシェア」については、タクシー不足時の限定的時間に二種免許を保有しない者がタクシー車両を用いて輸送を行う制度であるが、これはあくまでタクシー業界の運転手不足に対応する補完的な制度である。事業者として積極的に推進するというより、現状は運転手不足への対応として活用している。ライドシェアによってタクシーを本業とする人材が増えることを期待し、人材確保・育成の視点で活用している。また、既存のタクシー利用促進も資料に反映してほしい。「公共ライドシェア」については、連携を図りたいと考えており、実証運行等においてもタクシー事業の活用を検討してほしい。</p> <p>② 17 頁の施策②の運転手不足対策は、バス事業と同様にタクシー業界でも課題となっている。業界の魅力を伝えつつ、運転手不足の解消を図りたい。現状、配車アプリの活用によりタクシー利用が増加し、運転手数</p>	<p>(事務局)</p> <p>②③職業体験会など、これまで行ってこなかった取り組みも前向きに検討しつつ、連携して進めていきたい。</p>

	<p>も徐々にコロナ以前の水準に戻りつつある。ただし、車両の稼働率は約6割であり、乗務員増により稼働率の向上が期待される。</p> <p>沖縄市ではハローワークと連携し、お仕事体験会やサーキット場での運転体験を実施しており、今後浦添市とも連携していきたい。</p> <p>③ 計画内の各施策で「高齢者支援」という言葉が何度か出てくるが、タクシーを活用できる施策もあると考える。今後、連携して取り組んでいきたい。</p>	
<p>琉球大学 教授 神谷 委員</p>	<p>① 6頁の施策の課題に記載されている「訪問診療」や「オンライン診療」については、周知・拡散が効果的だと考える。交通による解決だけではないため、担当課に共有してもらいたい。</p> <p>② 7頁の高齢者移動サービスの取り組み内容において「第一層協議体」という用語が何度か出てくるが、これは何か。専門用語がわからない人にも伝わるような記載が望ましいのではないか。</p> <p>③ 12頁の令和8年度今後の取り組みとして『自転車ネットワーク計画の策定』とあるが、市としてすでに計画は策定済みではないのか。</p> <p>④ 16頁のMMについて、これまでの取り組みは着実に進められている。今後の発展に向け、効果が確認できるような調査を工夫して実施していただきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 担当課に伝え、連携していく。</p> <p>② 介護保険法における用語である。ご指摘のとおり、誰が読んでもわかりやすいよう説明や補足を入れていきたい。</p> <p>③ ご指摘の通り「自転車ネットワーク計画」はすでに存在している。誤解のないよう、表現を見直す。</p> <p>④ 我々もMMの取り組み効果が確認できるような調査が必要だと考えている。今後のご助言をいただきながら、検討・実施していきたい。</p>
<p>内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所 副所長(技術) 高良 委員</p>	<p>① 15頁の施策⑮⑯について、取り組みの進捗が「C」と評価されているが、具体的な取り組み内容が示されていない。進捗が芳しくない点を踏まえ、具体的な内容を記載したほうがよいのではないか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 施策⑮について、現状は公共交通マップのルート変更等に伴う修正作業中である。窓口での配布が滞っているため「C」と評価されているが、修正完了後は配布を行う</p>

		<p>予定である。</p> <p>施策⑩は店舗との調整が必要で思うように進捗していない。その中で、OKICA 販売コンビニの交通マップへの記載や職員のOKICA 利用促進など、できることから取り組んでいる。今後も引き続き実施していく。</p>
<p>浦添市女性団体連絡協議会 会長 玉城 委員</p>	<p>① 8頁の施策⑥について、コミュニティバスの記載がある。以前、コミュニティバス「うらちゃん mini」が運行していたときは非常に良く、周囲の評判も良好だった。今後の取り組みとしてモノレール利用促進が挙げられているが、市内西側ではその恩恵が十分に受けられていない。市内の駅やその他施設をつなぐバスがあれば解消されるのではないか。免許返納をする市民にとって、市内バスの利便性は重要であり、求められている。施策⑥の検討内容は、具体的な形として示してほしい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 令和2年度のコミュニティバス「うらちゃん mini」実証運行をふまえ、再開を望む声が多いことは把握している。今後実施するサービスについては、短期で終わるのではなく、継続性のあるものとしてほしい。そのためにも、利用ニーズや地域特性をしっかりと把握し、熟度のある検討を進めていきたいと考えている。</p>
<p>浦添市 副市長 比嘉 会長</p>	<p>議題である「計画内施策の推進状況と今後の取組について」について承認して宜しいか。</p>	<p>(全委員)</p> <p>異議なし。</p>

■ 4. その他

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
	特になし。	